

富岡製糸場と深谷人

【第4回】

秋蚕を広める
尾高惇忠 その③

富岡製糸場は明治四年（一八七
一）三月、翌年の春繭の出荷を
目指して建築が進められ、突貫
工事のような勢いで明治五年
（一八七二）七月ごろに完成しま
す。主な建物として繰糸所、繭倉
庫二棟（東・西）、蒸気釜所、工
女宿舎、仮首長館、仮検査人館な
どがありますが、工女宿舎、仮首
長館、仮検査人館を除く建物は全
て木骨煉瓦造で、同年十月四日に
操業が始まりました。

富岡製糸場は小さな町に突如現
れた近代的な模範工場です。そこ
で工女たちは、『お国のため』と
いった意識の中で、日々の技術の
向上を目指し懸命に働きました。
工女たちの労働意欲の素地には、
就業時間や休暇なども整備される
など、後の他県における『女工哀
史』とは一線を画すものであった
からです。

『繰糸は兵隊に勝る』とは、惇

忠が製糸場を退場する松代（長野
県）出身の工女たちに贈った言葉
です。明治初期のこの時代におい
て、惇忠は女性労働者の地位の確
保に力を注いでいたことが、この
言葉から知ることができます。
在職中、惇忠は秋蚕を開発し、
その普及に努めました。これは生
産量を倍増させる画期的なもので
したが、当時秋蚕は公認されてお
らず、所長職にあった惇忠は、政
府と見解を異にするということになり、
明治九年（一八七六）所長職を辞
しました。同十一年（一八七八）
埼玉県令白根多助、大書記官吉田
清英（第三代県令）の尽力で秋蚕
が公認されるに至り、蚕の生産量
は倍増、生糸の輸出货量も増加し明
治新政府の財政に大きく貢献しま
した。

児玉郡美里町松久に、高さ三
メートル余りの『秋蚕の碑』があ
ります。明治二十九年（一八九六

二月につくられ、碑文の撰文と撰
書は惇忠です。

惇忠は富岡製糸場を辞したの
ち、明治十年、渋沢栄一の招請で
第一国立銀行に入行しました。盛
岡・仙台支店に勤務し、地元経済
界の発展に尽力します。岩手県盛
岡市にある、盛岡市先人記念館に
は、盛岡の先人百二十五人中の一
人として、また、地場産業発展の
功労者として惇忠が紹介されてい
ます。（文：荻野勝正）

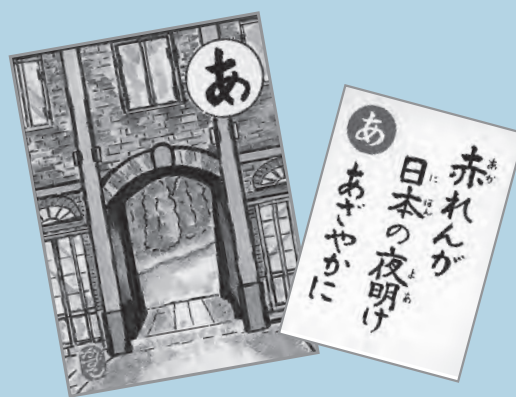


▶『秋蚕の碑』幾多の苦難を乗り越えて秋蚕が認
められるまでの由来を述べたもの。惇忠は早くか
ら秋蚕の重要性に取り組んでいた松久村の深沢豊
次郎を紹介し、深沢がこの碑を建立した。碑の裏
側には長野・山梨・群馬・埼玉・神奈川・千葉な
どの協力者の名があり、その中に渋沢栄一、尾高
惇忠の名前もひっそりと記されている。

赤れんが 日本の夜明け あざやかに

富岡製糸場の建造物群は、フランスの技術と日本人の手によ
って造られた赤れんが造の建物です。わが国の近代産業発展
の夜明けを示すと共に、生産された生糸は輸出産業の花形と
なった。この記念すべき建物群がほぼそのままの姿で残されて
いる。

（『富岡製糸場「絵手紙かるた』』NPO法人富岡製糸場を愛する会 より）



※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢
については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

市長の深い話

深谷市長
小島 進



夢の実現

「小島市長の夢はなんですか。」
先日、ある雑誌のインタビューを
受けた際に、記者のかたからこん
な質問を受けました。

毎年、子どもが将来になりたい職
業のランキングが発表されていま
す。男子はスポーツ選手、女子は
保育士やケーキ屋さんなどが1位
となることが多いようです。その
ような中、毎年上位に『医師』が
ランキングされています。子ども
たちは3年前の東日本大震災を経
験し、震災で多くのかたが犠牲に
なったのを目の当たりにしまし
た。その際に、何もできない自分
に歯がゆさを感じ、何らかのかた

ちて世の中の役に立ちたいという
気持ち芽生え、人を守る・助け
るという仕事に就きたいと思う子
どもが震災を機に増えているよう
に感じます。

以前わたしは、「夢というものは
自分のものであって、他人から
与えられるものではない。市長の
仕事はみんなに夢を与えることだ
と言われることがあるが、そうで
はなく、夢の実現を後押しする環
境を整備することだ」という話を
させていただきました。今でもそ
の考えは変わっていません。

今年も『深谷市医師育成奨学生』
の募集を開始しました。今年で4
回目になります。医師を目指す高
校3年生などに資金面での援助を
約束することで、夢の実現を後押
しできればと思っています。ぜひ
この制度を活用して、将来深谷で
活躍する医師となっていたいただ
いと思います。

「このまちに住んでよかった」
「このまちに生まれてよかった」
「深谷っておもしろいよね」そう
皆さんに言ってもらえるまちをつ
くることが、それがわたしの夢です。
そんな夢の実現がわたしの原動力
となっています。

ありがとうの手紙



最優秀賞

高校生・大学生の部
お父さんへ

深谷高校2年（現3年） 岩崎志保 さん

私と父は仲良くありません。というのは、ついで
のあいだまでの話で、最近になって父の存在のあり
がたさに気づきました。そのきっかけは、父との本
音の言い合いでした。あの時、吐き出していなかった
ら、この手紙も存在しなかったでしょう。父には口
数が少ない私ですが、常に感謝の気持ちでいっぱい
です。私が、父の日にあげたTシャツを嬉しそうに
すぐ着てくれたこと。今年、久々に父にプレゼント
をあげて、良かったです。大好きなお父さんへ、い
つも有り難う。

みんなの声BOX

Q 台風や豪雨などの災害時に、市から
の情報はどのように入手することが
できますか？

A 災害発生時、市では下記の通り複数
の手段を用いて情報を発信します。
積極的な情報収集をお願いします。

- ・防災行政無線による放送
- ・市ホームページ
- ・メール配信サービス
- ・テレホンサービス ☎0180-99-4431
- ・テレ玉（地デジ3チャ
ンネル）データ放送
- ・ツイッター
- ・広報車 など

問い合わせ

総務防災課 ☎574-6
635

登録はこちらから

メール配信サービス



ツイッター

